

**研究タイトル：**

## 写真描写問題に対する学習者の反応



氏名：	井上 英俊／INOUE Hidetoshi	E-mail：	hinoue@aksahi.ac.jp
職名：	准教授	学位：	教育学修士, MA in ELT
所属学会・協会：	全国高等専門学校英語教育学会, 全国英語教育学会		
キーワード：	英語, リスニング, 写真描写問題, TOEIC, 高専生		
技術相談 提供可能技術：			

**研究内容：**

写真描写問題は、技術革新の結果、写真技術の高度化、容易化、そして低価格化により、今世紀に入ってようやくパーソナルレベルでも取り扱いが可能となった最新の課題形式である。研究の目的は、1) 高等専門学校生の写真描写問題に対する特性をパフォーマンス面と意識面から明らかにすること、2) 高等専門学校生用の技術系海外インターンシップに対する学習教材としての写真描写課題を開発すること、の2点である。

拙論（2007, 2009）においてTOEIC公式問題を用いて調査した結果、下位群（TOEICリスニングスコア200点以下）であっても写真描写問題の約50%を正答すること、スクリプトを配布して解答させた場合は約70%を正答すること、を明らかとした。この結果から、高専生は写真描写問題において使用されている英語そのものはおよそ理解しており、リスニング課題としても十分使用可能であるとの結論に達している。また拙論（2012）では、平均的な高専生の場合、問題項目の困難度と問題に使用される語数との間に正の相関関係があることを明らかとした。そして誤って選択された錯乱肢を分析すると、他の選択されなかった錯乱肢よりも語数が多いことを明らかとした。この結果から、語数が多いと理解度が下がり、理解度が下がった場合は語数の多いものを正答と捉える傾向がある、との結論を得ている。



（放送される英文例）

- A. There is a display on the wall.
- B. Some documents are on display.
- C. Someone is calling on the phone.
- D. Some screws are placed neatly.

（解答： D）

**提供可能な設備・機器：**
**名称・型番(メーカー)**
